

冬合宿 八ヶ岳

【冬合宿総括】

多くの人に参加できるように、いくつものコースを設定して集中型の合宿にしようとしたが、それはうまくいかず、縦走とバリエーションの2コースとなった。しかし、結果として、総勢14名が参加することになったのは、大方のニーズを受け止められたものと考えている。

縦走コースは、例年の冬合宿が1つのピークを目指すアタック形式だったところ、年度初めの活動方針で「厳冬期3000m縦走を射程に入れる」としたので、尾根をつたってピークを渡り歩く縦走形式にこだわった。参加者は重い荷物を担いできつい思いをしたと思うが、何か得るものがあったのではないだろうか。コースは初日は温泉に入れるというオツなプランで、硫黄岳では下山組を見送り、岩稜感のある横岳を通過し、惜しくも時間の関係から赤岳をあきらめ、地蔵尾根を下ったが、天気も良く、強風で顔をバリバリに凍らせるということではなかった。だれもが楽しめたと思う。直前の降雪で雪不足も解消したことも、本当に良かった。

バリエーションコースは、実力十分の2人で果敢な計画を立て、体力の限りを尽くして、やれることを精一杯やったものと思う。こちらも誠に充実した山行だったのではないかな。

今回、食糧と装備の各チーフを経験のある日比野さんと佐藤さんに、各サブを育成目的で大塚さんと西山さんをお願いした。実際は各サブの方で食糧表、装備分担表を作ってもらったので、今回はサブの2人に各チーフをお願いし、新たに各サブを迎え、連綿と知識技術を継承していってもらえたら良い流れになる。また、本沢温泉での夕飯・朝飯の食当は豪華な内容でも満足感が高く、後半の食当は軽量化の願いを真正面から捉えて実現してくれたものであり、メリハリがあって、いずれもレベルが高い。会計係の小濱さんにも骨を折ってもらった。

当会は年々会員数が増加している。ほんの数年前の冬合宿の参加者が3名だったことを思うと、隔世の感がある。多人数のニーズをどう受け止め、役割をぬかりなく分担して、いかにひとつの山行にまとめあげていくかが、今後とも課題となる。他方で、この組織的な課題にばかり気を取られ、山行そのものの魅力が薄れることがないようにもしなくてはならないと思う。

(記：岡村)

冬合宿：八ヶ岳縦走コース 硫黄岳，横岳

◆日程 2019年12月28日(土)～12月30日(月)

◆メンバー L：岡村，日比野，佐藤，大塚，西山，小濱，小山田，志村，今井，大山，今，河野

12月28日(土) 天候：晴れ

(メンバー L：小山田，志村，今井，大山，今)

八王子 8:33 発のあずさに乗る、小淵沢へ向かう。車窓からは青空と山々の絶景が広がり、山行への期待が高まる。小淵沢で小海線に乗り換え、下車した松原湖駅では2台のタクシーが出迎えてくれた。メンバーは計11名で、ジャンボタクシー1台と普通車1台に分乗。運転手さんに、降車予定の稲子湯より先のみどり池入口まで入れると言われ、みどり池入口で下車、コースタイムを30分短縮できた。装備担当大塚さんが考えてくれた装備分担表に基づき、共同装備を分け各々パッキングをする。

みどり池入口を12:05に出発。落葉松林からしだいに、モミノキ、コメツガ、しらびその森へ。雪のついた樹々に光が入り、東欧の森のような美しさに1回目の「来て良かった」。13:45みどり池着。池の前で写真を撮ったりしながら休憩。早く本沢温泉でお風呂に入りたいと、14:00にみどり池を後にした。

みどり池から先は雪の量が少し増えたが、トレースも明瞭で迷うことはない。本沢温泉まで全員ツボ足で歩いた。15:18 本沢温泉幕営地着。6〜7 テン・4〜5 テン・2〜3 テンをまとめて張れる場所を確保しテント設営後、温泉に入る人、テントで寛ぐ人と夕食まで各々の時間を過ごした。夕食はきりたんぼ鍋、重いきりたんぼ（70g×11本）などトータル3kg 超えの食材を一緒に担ぎ上げてくれたメンバーに感謝。



夜、テントの外に出ると樹々の間から見える星空に、2回目の「来て良かった」。

(記：今井)

GT：みどり池入口 12:05 - みどり池 13:45/14:00 - 本沢温泉幕営地 15:18

12月29日(日) 天候：晴れ

<<硫黄岳から下山するパーティ>>

(メンバー L：小山田，志村，今井，大山，今)

2日目朝は4時起床の予定であったが、さすがに八ヶ岳は気温が低く、朝方からの寒さで目が覚めた。テント内の水が凍っていたので、軽く0℃を下回っていたようだ。辺りはまだ暗いが、寝具を早々に片付け、朝食の準備を始める。食当は今さんで、メニューはトマトリゾットである。アルファ米とトマトスープの素がベースであるが、臭いを我慢し持ってきてくれた玉ネギのみじん切りやベーコン、とろけるチーズの追加で、ボリュームも美味しさも抜群であった。

テントを撤収し荷物をまとめて、テント場から少し登った小屋前で装備を整える。全11人と多いため、八ヶ岳を目指す6人と硫黄岳から下山する我々5人にパーティを分け、八ヶ岳組からスタートすることとした。登山道は圧雪のままで夏沢峠までは急登もないため、つぼ足で登れそうであったがアイゼンを着けて出発した。しばらく登ると野天風呂の道標があり、その先の登山道から野天風呂を見ることができた。河原に木製の湯舟とすのこ状のスペース



があるだけの本当の野天で、雪景色を見ながらの入浴も気持ちよさそうだが、今回は諦め歩を進める。次のチェックポイントは夏沢峠で、本沢温泉から標高差 335m である。樹林帯の比較的緩やかな九十九折れ、風もなく歩きやすいが、ペースが上がらない。途中、一度の小休憩を取り、夏沢峠へは1時間 25分を要し八ヶ岳組に追いついた。

休憩の後、硫黄岳山頂を目指す。山容からもわかるように急登はなく、比較的なだらかな単調な登りが続く。夏沢峠からの標高差は 330m であり、まずは標準コースタイムの1時間での登頂を目指す。暫くは樹林帯を進むが、間もなく森林限界を超えると、登山道は一変した。これまで風を感じることは少なかったが、かなり強い風に体をあおられる。この強風で雪が飛ばされており、登山道は岩と氷のミックスでバランスを崩しやすい。慎重に歩を進めるためペースが上がらない。中腹で風を避けられる岩場があったので小休憩を取り、体制を整え再び山頂を目指す。歩き出すとすぐに、休憩を取っていた八ヶ岳組に追いついたので合流する。この辺りからルートは完全に稜線に乗ることになり、風を遮るものはケルンしかなくなる。しかし、山頂付近を捉えることができるようになり、集中力も増したのか、ほどなく山頂を踏むことができた。

ここで八ヶ岳組とは別れることとなる。全員で記念撮影をして、我々は下山を開始する。山頂は強風のため、赤岩ノ頭まで降りたところで休憩をとる。青い空に雪を抱いた横岳や八ヶ岳がとても映える。その稜線上に6人パーティが見える。おそらく八ヶ岳組だろうと思い、「横浜〜！」と声をかけるが届かないようだ。皆の無事を祈りながら我々は赤岳鉱泉を目指す。再び樹林帯となり、圧雪の登山道は歩きやすく、良いペースで赤岳鉱泉に到着する。赤岳鉱泉名物のアイスキャンディー越しの八ヶ岳が美しい。名残惜しいが下山を急ぐ。北沢も適度な積雪があり、アイゼンを着けたまま堰堤広場まで下る。アイゼンを外し雪の林道を下るが、冬山装備が重かったか、美濃戸口に到着したのは15時を過ぎていた。予定より若干遅い下山となったが、最高の天気にも恵まれ、冬の八ヶ岳を経験できた良い山行であった。



(記：大山)

CT：起床 4:00 - テント場 6:30 - 本沢温泉 6:43/7:05 - 夏沢峠 8:30/8:45 - 硫黄岳 10:06/10:22 - 赤岩ノ頭 10:38/10:57 - 赤岳鉱泉 12:01/12:48 - 美濃戸口 15:17

<<硫黄岳から横岳を経由して行者小屋に向かうパーティ>>

(メンバー L: 岡村, 日比野, 佐藤, 大塚, 西山, 小濱, 河野)

今日は最初からアイゼン装着。昨日同様パーティを今日下山する組と、縦走する組で分割し、縦走組が先行する。先頭を私が受け持ち、ペースを上げすぎないように後方に注意しながら進む。最初は傾斜が小さい樹林帯で、10分ほど進むと本沢温泉の野天風呂(日本最高所)に到着。ここで入浴するにはかなり登ることになるので、昨晚はテントサイト近くの内風呂において良かった。空は青く澄み渡っている。急登が始まるが、青空を眺めながらの静かな世界を粛々と進む。夏沢峠では



山彦荘を風よけにして休憩となるが陽が当たらず寒い。ほどなく下山組が到着する。とりあえずのお別れをして出発。

硫黄岳までは急登が続く。雪が深く不安定な場所や岩が覗いてゴロゴロする場所が交互に現れる。重い荷物もありペースが上がらない。山頂が近づくにつれ向かい風が強まってきた。また、太陽を正面に見るようになったため、一時停止してバラクラバとゴーグルなどで防御。そうこうしているうちに下山組が追い付いてきた。絶景が広がる山頂で集合写真を撮り、ここで本当に下山組とお別れ。

すぐ下にある硫黄岳山荘まで下って、エネルギー補給とハーネス装着。恐れていた風は凪いでくれ、360° 晴れ渡り気持ち良い。だがやはり、ペースが上がらない。荷物配分を調整するなど助け合うが、列が長く広がりがちだ。途中、鎖場などは先頭を岡村 L に代わって貰い慎重に進む。横岳（奥の院）に到達するまでに夏道の CT の倍を費やしたが、体力を消耗したうえでの



の縦走装備での危険箇所通過だ。日ノ岳を過ぎたところで再び休憩。ここで岡村 L が赤岳断念を提案。赤岳展望荘が大分近くなってきたが、そこから赤岳までの急登を思うと体力的にも時間的にも余裕はなく、明るいうちの下山は厳しい。パーティに余力があったとしても危険度は増す。個人的には残念だが下山に同意。総意で下山を決断した。先日の蓬尾根雪トレでの幕営タイミングと場所の決定同様、断念の判断こそ余裕のあるうちにする。自分でも適切に出来るようになりたい。

決定後はみな気持ちに余裕が生まれ、危険とされる地藏尾根の急下降も安全にこなせた。

行者小屋に到着してほどなく、阿弥陀北稜組の河野さんが到着。幕営地は満杯だ。小屋番に交渉して普段は使われない小屋裏手の小高い場所に決まった。静かな場所に2張りを独占だ。19時に到着した林さんと須田さんは小屋前に幕営。会えてよかった。乾杯と夕食後20時就寝。

長かったが冬合宿のハイライトらしい充実した一日だった。 (記：大塚)

CT：本沢温泉 7:00 - 夏沢峠 8:20/8:40 - 硫黄岳 10:05/10:20 - 硫黄岳山荘
10:45/11:15 - 横岳 12:35/12:55 - 日ノ岳 13:50/14:20 - 地藏の頭 14:45 - 行者小屋
15:50

12月30日(月) 天候：雪

(メンバー L:日比野, 大塚, 西山, 小濱, 須田, 林)

冬合宿の最終日、朝はチラリチラリと雪が降っていた。昨夜は昼間の空の青さと風も思ったより弱く、なのに歩けなかった後悔と悔しさの中眠る。自分の気持ちを持って余ってしまった夜だった。それでも朝がきてまた支度をして動き始める。テントを撤収して行者小屋の前で須田さんと林さんと合流したのがとても嬉しい。冬は山の中で人の気配が暖かいと感じる。岡村さんと河



野さんが阿弥陀北稜に向かって出発するのがとてもカッコいい。佐藤さんは調子を崩していたそうで、この日は待機との事。ぜんぜん気が付かずすみません。朝の気温は手元の温度計でマイナス10度、我々は6名での下山を開始した。

途中の美濃戸山荘までは樹林帯の中、雪が降りつづき音が吸い込まれて幻想的な中をテクテクと歩く。道は踏み跡もあり歩きやすい。美濃戸山荘ではマイナス5度、無料で飲んでもいいというお茶を頂きホッとする。かつては野沢菜も振舞われたらしいが今回はナシ、お茶を頂けるだけでも十分にありがたい。ゆっくり休憩をして再び歩き始める。日比野さんも須田さんも



慣れた道という様子。八ヶ岳山荘では山荘の向かいのオシャレなJ&Nで入浴となってワクワクする。入浴料700円、シャンプー、ボディソープ、ドライヤー完備で山ではないかのような感じだった。

ゆっくりお風呂で温まり、茅野駅行 11:20 発のバスに乗り乗る。この頃には雪が雨に変わるが濡れるほどではない。茅野駅ではお蕎麦をいただき、下界の気分を満喫する。新年に備えて日本酒真澄のアラバシリを購入、これは帰宅後に家族で飲むが美味しすぎて困った。

た。冬の八ヶ岳私にはまだまだ難易度が高すぎたと反省していたのに、あまりの美味しさにもう一度トライしたいと思わせてくれる有難い味だった。

2019年最後の山行は来年度の課題をたくさんもらった山行となった。 (記：小濱)

CT：行者小屋 7:00 - 美濃戸山荘 9:00/9:40 - 八ヶ岳山荘 10:20-J&N 入浴- 茅野駅行バス乗車 11:20

【食糧】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(担当：日比野、西山)

アタック形式ではなく冬テント装備を背負っての縦走、特に2日目には横岳のトラバースが控えているため、軽量化をお願いした。担当者それぞれがより軽く、でもおいしく、と工夫を凝らしてくれた。自宅で試作をしてくれた方もいて、感謝である。

メニューは和洋中華エスニックとバラエティに富んだものになった。毎日しっかり食べて、気持ちも豊かな合宿になった。

ごみは分別してα米のジッパー付袋にまとめ省スペース化・匂い防止を実践できており、日比野さんの机上講習が浸透している。

～食当からのひとこと～

(今井) 重いきりたんぼ鍋の食材を一緒に担いでくれたメンバーに感謝。少しでも軽くするために、直前に調味料を料理酒 200g・醤油 100g→鍋キューブ 8個 48g・粉末醤油 18gに変更しました。

(今) 今回はトマト缶をトマトスープの素で代用できたことが大きな気づきでした。味も問題なく、アイデアいただいた日比野さんに感謝です。

(大塚) 最初チーズリゾットを考えたが、メニュー重複を避けるために思案の末、定番のカレーに変更。軽量化のために乾燥食材を使いつつも本格的な雰囲気を目指した。家で試食して改良の上、計量して持ち込んだ。もう少しレンズ豆を軟らかくしても良かった。

(小濱) 出来上がった瞬間に「しまった薄い!!」と思いましたが、小袋の醤油を足しドキドキのなか食べていただきました。皆様食べながら薄かったですよね!?でも「美味しい」と言って

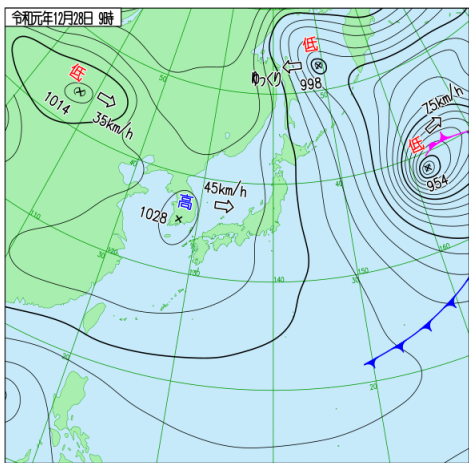
ただけて少しホッとしました。ありがとうございます。行動中は塩分が欲しくなるのを失念です。次回はもっと美味しくボリュームも出せたらなあと思います。

【装備】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：佐藤、大塚）

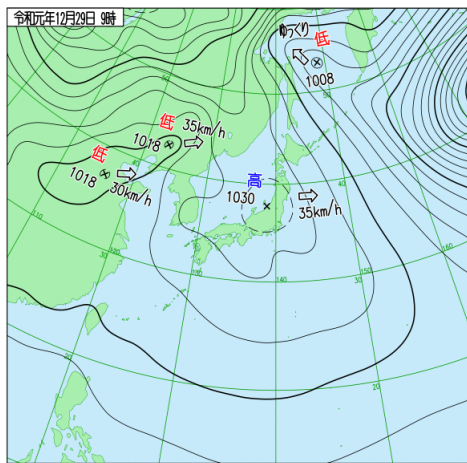
延べ12人が参加して最大4日過ごすとなると、共同装備や食料の流れはタスク管理表を使って管理するのが良い。縦軸にタスク=装備、食料を書き出し、横軸の日程に誰の持ち物にするか書く方法である。

一般にガントチャートと言うが、最近はスマホのアプリにもなっている。これなら皆で共有出来るし見易い、夏合宿あたりでどうですか？

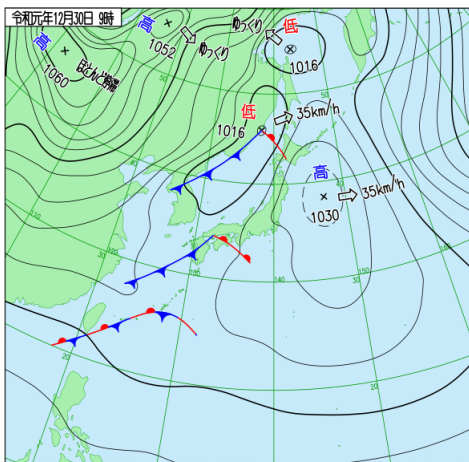
【気象】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（担当：岡村）



12月28日 天候：晴れ



12月29日 天候：晴れ



12月30日 天候：雪



冬合宿 食料表

日程		テン場	人数	担当	メニュー	食材
28日	夜	本沢温泉	11 (男7, 女4)	今井	きりたんぼ鍋	きりたんぼ 11本、まろに一ちゃん 1P(100g) せり 1束、ネギ 3本、白菜 1/4、舞茸 2P、 冷凍さがきゴボウ 1P、鶏肉 22切れ、鶏肉団子 22切(※肉類は冷凍して持参)、油揚げ 3枚、鍋キューブ 8個 48g、鶏ガラスープスティック 5本、粉末醤油 18g、ゆず胡椒 40g
	朝					
29日	夜	行者小屋	7 (男5, 女2)	大塚	乾燥野菜でつくる 時短カレー	α米 6袋 乾燥ほうれんそう 3T、乾燥人参 3T、 畑の具(乾燥野菜ミックス) 3T、 大豆ミートひき肉タイプ 76g、レンズ豆 140g、 トマトペースト 2本 36g、ジャワカレー中辛粉末 8人分、 ガラムマサラ粉 1t、粉末ショウガ 1t、 粉末ニンニク 2-3t、フライドオニオン 7T
	朝					
30日	朝		7 (男5, 女2)			



28日夜 きりたんぼ鍋



29日朝 リゾット



29日夜 時短カレー

冬合宿 装備分担表

	kg	12月28日	12月29日	12月30日
No26 本体	2.9	岡村	岡村	日比野
No26 フライ	1.3	岡村	岡村→大塚	大塚
No26 ポール	1.3	西山	西山	大塚→西山
銀マットL	0.5	西山	西山	西山
銀マットL	0.5	岡村	岡村	小濱
銀マット M	0.3	小濱	小濱	小濱
No24 本体	1.5	大山	大山	
No24 フライ	0.8	小山田	今	
No24 ポール	0.8	志村	志村	
銀マット L	0.5	今	今	
銀マット M	0.3	今井	今井	
No25 全部	2.2	日比野	日比野	デポ→岡村
銀マット L	0.5	佐藤	佐藤	デポ→佐藤
コッヘル No9	0.8	大塚	大塚→小濱→岡村	デポ→岡村
ガス 3	1.2	大山, 志村, 大塚→大山, 大塚 2	小濱, 西山, 大塚	岡村 1(緊急用), 大塚 2
ガス 2	0.9	小山田(先使う)	小山田(1個下山)	
コンロ 1		岡村	岡村	岡村(緊急用)
コンロ 2		佐藤	佐藤	デポ→佐藤
コンロ 3		小山田	小山田(緊急用)	
コンロ台2		西山, 小濱	西山, 小濱	デポ→岡村
食料 28 日夜	2.7	今井 1.2, 残り 3 分割し, 今>大山>大塚		
食料 29 日朝	1	今		
食料 29 日夜	1<	大塚	大塚	
食料 30 日朝	1<	小濱	小濱	
アルファ米	0.1	大塚 6+7 袋/7 人	大塚 6+4 袋/4 人→大塚 3+西山 3+? 4	
竹ペグ		小濱	小濱	一部持ち帰る→岡村
おたま		西山	西山	西山
ツェルト		佐藤	佐藤	佐藤
ランタン				
救急箱		今井/西山/河野(各1)	今井/西山/河野(各1)	西山/河野(各1)
ブラシ		岡村	岡村	デポ→岡村
漏斗		岡村	岡村	岡村
無線機		岡村	岡村/河野(各1)	岡村/河野(各1)
ザイル	3	佐藤	佐藤/河野(各1)	佐藤/河野(各1)